

4K元年 いよいよ到来

カシオのビジネスプロジェクター

カシオ計算機は4K UHD（約830万画素）、500ルーメンの高解像度・高輝度プロジェクター「XJ-L8300HN」を6月に発売する。大会議室や講堂などの大型スクリーンに高精細画像を投影することが可能だ。プロジェクターの用途が拡大するだけでなく、プロジェクターを活用した新しいビジネスも生みだされる。ビジネスプロジェクターは4K元年に突入する。

PR



6月に発売される高画質・高輝度の4Kプロジェクター「XJ-L8300HN」

高まる市場での存在感

カシオ計算機は2003年にプロジェクター事業に参入した。10年にレーザーと発光ダイオード（LED）のハイブリッド光源プロジェクターを発売。15年にはハイブリッド光源のエントリーモデル「XJ-V1」を市場投入した。加えて16年にはエントリーモデル3機種、アドバンスドモデル5機種の計8機種を発売。同社はプロ

ジェクター市場での存在感を高めつつある。10年以降に発売された同社製プロジェクターはLEDとレーザーのハイブリッド、あるいはレーザーという半導体光源を採用したことで水銀レスとなった。同輝度の製品で比較すると半導体光源の消費電力は水銀ランプの約半分。また、半導体光源は発熱量が少なく、長寿命のほか、防塵設計が可能で、静音化しやすい。クイックオン・オフというメリ



「4Kプロジェクターのラインアップを今後さらに拡充させる」と語るコンシューマ開発本部開発統轄部第三開発部長の中村氏

ツトもある。例えば「XJ-V1」は電源投入後、最短5秒で起動し、投影可能となる。英国Future Source Consultingの調査においても1080P以上の高解像度ビジネスプロジェクターが市場全体に占める割合が1割以下から20年には3割に拡大すると予想している。こうした状況を背景

たという。光源にはレーザーを採用し、約2万時間稼働という長寿命化を実現。また、投影位置を補正するレンズシフト機能、入力された動画や静止画の信号の解像度を高めて出力する超解像機能を搭載した。カテゴリー5以上のイーサネットケーブル使用で4K映像や音声データなどを最大70メートルまで送るHDBaseT規格にも対応する。医療関係の画像、建築物や自動車、機械の設計図面、デザイン画など、高精細の投影が求められる分野での利用が想定されるほか、美術館、博物館などでも利用されるだろう。

カシオ計算機創業メンバーの一人、樫尾俊雄氏の「0から1を生み出す」「世界にないものを創造する」「お客さまに喜ばれるモノを作る」という発明に対する考え方や経営理念の「創造 貢献」は同社の開発者たちに脈々と受け継がれている。今後、同社は4Kプロジェクターのラインアップ拡充にも力を入れていくという。「この規格にも対応する。医療関係の画像、建築物や自動車、機械の設計図面、デザイン画など、高精細の投影が求められる分野での利用が想定されるほか、美術館、博物館などでも利用されるだろう。」（同）と意気込む。

XJ-L8300HN オランダで発表

「我々は常に環境に配慮したモノづくりを行っている。半導体光源オン・オフというメリ

CASIO

カシオ計算機株式会社

住所：〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

URL <http://casio.jp/>